

# 第121回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結注記表

個別注記表

(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)



上記事項につきましては、法令および定款第16条の規定に基づき、インターネット上の当社ホームページ (<https://www.nittofuji.co.jp>) に掲載することにより株主の皆さまに提供しております。

# 連 結 注 記 表

## 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社の数及び名称

6社 日東富士運輸(株)、(株)さわやか、隅田商事(株)、Nitto-Fuji International Vietnam Co.,Ltd.  
(株)増田製粉所、兼三(株)

当社は、平成30年2月6日付で従来、持分法適用関連会社でありました(株)増田製粉所の全株式を取得いたしました。これに伴い、平成29年12月31日をみなし取得日として、同社及びその子会社である兼三(株)を連結の範囲に含めております。

#### (2) 非連結子会社の名称

1社 カネス製麺(株)  
(連結の範囲から除いた理由)

同社に対する支配が一時的であるため、連結の範囲から除外しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法を適用する関連会社の数及び名称

1社 (株)増田製粉所

当社は、平成30年2月6日付で従来、持分法適用関連会社でありました(株)増田製粉所の全株式を取得いたしました。これに伴い、平成29年12月31日をみなし取得日として、同社を連結の範囲に含めております。

#### (2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称等

(非連結子会社)

カネス製麺(株)

(持分法を適用しない理由)

同社に対する影響が一時的であるため、持分法の適用から除外しております。

(関連会社)

(株)兼平製麺所

(持分法を適用しない理由)

持分法非適用会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち(株)さわやか及びNitto-Fuji International Vietnam Co.,Ltd.の決算日は平成29年12月31日であり、連結計算書類の作成にあたっては同日現在の計算書類を使用しております。

なお、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### ① 有価証券

その他有価証券

###### (イ) 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定しております。)

###### (ロ) 時価のないもの

株式は移動平均法による原価法、債券は償却原価法によっております。

###### ② たな卸資産

###### (イ) 商品及び製品

主として総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

###### (ロ) 原材料及び貯蔵品

移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

###### ③ デリバティブ

時価法によっております。

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

機械装置については、主として定額法、その他は定率法を採用しております。

また、当社の埼玉工場の一部及び静岡工場の機械装置については定率法を、(株)増田製粉所は主として定額法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、次のとおりであります。

建物及び構築物 3～60年

機械装置及び運搬具 2～15年

###### ② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

###### ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

##### (3) 重要な引当金の計上基準

###### ① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員及び執行役員に支給する賞与に充てるため、支給見込額基準による繰入額を計上しております。

③ 役員賞与引当金

役員の賞与の支払に備えるため、当連結会計年度における支給見込額を計上しております。

④ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) その他連結計算書類作成のための重要な事項

① 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付及び執行役員の退職慰労金に備えるため、従業員については当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を、また執行役員については内規に基づく期末要支給額を計上しております。

1. 退職給付見込額の期間帰属方法

当社従業員の退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

2. 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、5年による定額法により按分した額を発生の日翌連結会計年度から当該年数にわたって費用処理することとしております。

3. 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

② 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産、負債、収益及び費用は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

③ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

④ のれんの償却方法及び償却期間

5年間で均等償却しております。

⑤ 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

## 連結貸借対照表に関する注記

### 1. 担保に供している資産及び担保に係る債務

#### (1) 担保に供している資産

有形固定資産 1,493百万円

#### (2) 担保に係る債務の金額

短期借入金 80百万円

長期借入金(1年内を含む) 488百万円

計 568百万円

2. 有形固定資産の減価償却累計額 33,210百万円

### 3. 保証債務

下記の借入金に対し保証を行っております。

従業員 44百万円

4. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書に関する注記

1. 当連結会計年度において当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用途	種類	金額	場所
外食事業店舗 (連結子会社1物件)	建物及び構築物	1百万円	神奈川県平塚市
	機械装置	0百万円	
	有形固定資産その他 (工具器具備品)	0百万円	
	無形固定資産その他 (電話加入権)	0百万円	
計		1百万円	

外食事業店舗につきましては、資産のグルーピングは、各店舗毎に行っております。

減損損失を計上した店舗は、収益性が低下しており、将来キャッシュ・フローがマイナスと見込まれるので、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しておりますが、上記物件については、実質的な価値はないと考え、正味売却価額をゼロと評価しております。

2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書に関する注記

### 1. 発行済株式に関する事項

(単位：株)

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式	4,692,364	—	—	4,692,364

### 2. 配当に関する事項

#### (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	389	85.00	平成29年3月31日	平成29年6月30日
平成29年10月31日 取締役会	普通株式	137	30.00	平成29年9月30日	平成29年12月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの  
平成30年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり付議する予定であります。

・普通株式の配当に関する事項

- |            |            |
|------------|------------|
| ① 配当金の総額   | 567百万円     |
| ② 配当の原資    | 利益剰余金      |
| ③ 1株当たり配当額 | 124.00円    |
| ④ 基準日      | 平成30年3月31日 |
| ⑤ 効力発生日    | 平成30年6月29日 |

3. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 金融商品に関する注記

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金調達については主に銀行借入により調達し、一時的な余資は安全性の高い定期預金等で運用しております。デリバティブは、為替変動リスクを回避するために実需取引の範囲内で利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当社は、当該リスクに関しては、与信管理規定に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を年度ごとに把握する体制としています。連結子会社についても、当社の与信管理規定に準じた管理をしております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのすべてが1年以内の支払期日です。

借入金、金利の変動リスクに晒されていますが、長期借入金は固定金利で調達しております。

デリバティブ取引の内容は、原料の輸入による為替変動リスクを回避するための為替予約取引です。為替予約取引は、相場変動による一般的な市場リスクを有しております。また、取引の相手先は信用度の高い金融機関等に限定されていることから、相手方の契約不履行によるリスクはほとんどないと判断しております。デリバティブ取引の管理については、実行担当部署と異なる部署が、取引先より都度実行額の通知を受けており、残高の確認及び評価を行っております。

営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されていますが、当社グループでは、各社が月次で資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

#### (3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

#### (4) 信用リスクの集中

当連結会計年度の連結決算日現在における営業債権のうち約50%が特定の大口顧客に対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日（当連結会計年度の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（(注) 2をご参照ください。）。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,862	1,862	—
(2) 受取手形及び売掛金	8,946	8,946	—
(3) 投資有価証券	7,273	7,273	—
(4) 支払手形及び買掛金	6,080	6,080	—
(5) 短期借入金	585	585	—
(6) 長期借入金	1,412	1,413	0
(7) デリバティブ取引	—	—	—

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、並びに (2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

なお、投資有価証券のうちその他有価証券に関する連結貸借対照表計上額と取得原価との差額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	種類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	6,667	1,593	5,074
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	606	625	△19
合計		7,273	2,218	5,054

(4) 支払手形及び買掛金、並びに (5) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6) 長期借入金

長期借入金の時価については、連結決算日における借入残存期間において、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(7) デリバティブ取引

為替予約の繰延ヘッジ処理によるものは、取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

- (注) 2 非上場株式（連結貸借対照表計上額304百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内
現金及び預金	1,862	—	—
受取手形及び売掛金	8,946	—	—
合計	10,808	—	—

(注) 4 長期借入金の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内
長期借入金	661	751

3. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 1 株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額	7,066円82銭
2. 1株当たり当期純利益	510円14銭

## 企業結合に関する注記

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称およびその事業の内容

被取得企業の名称 (株)増田製粉所

事業の内容 小麦粉・ふすま・プレミックス粉の製造・販売及び乾麺の製造・販売

②企業結合を行った主な理由

製粉業界を取り巻く環境は販売競争が激化するなど厳しさを増しており、双方がお互いの事業の根幹を成す資産、経営資源、システム、ノウハウなどの相互提供・活用を推進させ、両社が一体となって迅速な経営判断を行うことが両社の企業価値をより一層向上させることになると考え、株式を取得することといたしました。

③企業結合日

平成29年12月29日 公開買付け

平成30年2月6日 株式等売渡請求

(みなし取得日 平成29年12月31日)

④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

⑤結合後企業の名称

変更はありません。

⑥取得した議決権比率

取得直前に所有していた議決権比率 30.7%

企業結合日に取得した議決権比率（公開買付け） 61.5%

企業結合日に追加取得した議決権比率（株式等売渡請求） 7.8%

取得後の議決権比率 100.0%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるもの

(2) 連結計算書類に含まれている被取得企業の業績の期間

平成30年1月1日から平成30年3月31日までの業績が含まれております。

(3) 被取得企業の取得原価および対価の種類ごとの内訳	
追加取得直前に保有していた(株)増田製粉所の企業結合日における時価	1,338百万円
企業結合日に追加取得した(株)増田製粉所の株式の時価	2,695百万円
未払金 (株式等売渡請求)	339百万円
取得原価	4,372百万円

(4) 主要な取得関連費用の内容および金額

アドバイザリーに対する報酬・手数料等 109百万円

(5) 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計金額との差額

段階取得に係る差損 116百万円

(6) 発生した負ののれん発生益の金額および発生原因

①発生した負ののれん発生益の金額 324百万円

②発生原因

(株)増田製粉所の企業結合時の時価純資産額が取得原価を上回ったためであります。

(7) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額ならびにその主な内訳

流動資産	3,749百万円
固定資産	2,456百万円
資産合計	6,205百万円
流動負債	1,596百万円
固定負債	422百万円
負債合計	2,018百万円

(8) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

影響の概算額については、合理的な算定が困難であるため記載しておりません。

### 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

### その他の注記

該当事項はありません。

## 個 別 注 記 表

### 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

##### (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

##### (2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

株式は移動平均法による原価法、債券は償却原価法によっております。

#### 2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 商品及び製品

総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

##### (2) 原材料及び貯蔵品

移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

#### 3. デリバティブの評価基準及び評価方法

デリバティブ…時価法によっております。

#### 4. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

機械装置については定額法、その他は定率法を採用しております。

また、埼玉工場の一部及び静岡工場の機械装置については、定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～60年

機械装置及び運搬具 2～12年

##### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

- (3) リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

## 5. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金  
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金  
従業員及び執行役員に支給する賞与に充てるため、支給見込額基準による繰入額を計上しております。
- (3) 役員賞与引当金  
役員の賞与の支払に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。
- (4) 退職給付引当金  
従業員の退職給付及び執行役員の退職慰労金に備えるため、従業員については当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を、また執行役員については内規に基づく期末要支給額を計上しております。  
なお、数理計算上の差異については、発生の翌年度より5年による按分額を当該年数にわたって処理しております。
- (5) 役員退職慰労引当金  
役員の退職慰労金の支払に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

## 6. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

- (1) 退職給付に係る会計処理  
退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。
- (2) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準  
外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
- (3) ヘッジ会計の処理  
繰延ヘッジ処理を採用しております。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

## 貸借対照表に関する注記

- |                              |           |
|------------------------------|-----------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額            | 24,115百万円 |
| 2. 保証債務                      |           |
| 下記の借入金に対し保証を行っております。         |           |
| 従業員                          | 44百万円     |
| 3. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務        |           |
| 短期金銭債権                       | 4,636百万円  |
| 短期金銭債務                       | 2,430百万円  |
| 4. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。 |           |

## 損益計算書に関する注記

- |                              |           |
|------------------------------|-----------|
| 1. 関係会社との取引高                 |           |
| 売上高                          | 27,423百万円 |
| 仕入高                          | 2,068百万円  |
| 営業費用                         | 2,544百万円  |
| 営業取引以外の取引高                   | 1,160百万円  |
| 2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。 |           |

## 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

株式の種類	当事業年度期首の株式数	当事業年度の増加株式数	当事業年度の減少株式数	当事業年度末の株式数
普通株式	112,626	314	—	112,940

(注)自己株式の増加は単元未満株式の買取りによるものであります。

## 税効果会計に関する注記

### 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
賞与引当金	106百万円
未払事業税	27百万円
その他	32百万円
<u>繰延税金資産合計</u>	<u>167百万円</u>
<u>繰延税金資産の純額</u>	<u>167百万円</u>
長期繰延税金資産	
土地評価損	107百万円
役員退職慰労引当金	26百万円
会員権評価損等	19百万円
投資有価証券評価損	15百万円
固定資産除却損	0百万円
固定資産減損損失	73百万円
退職給付引当金	12百万円
その他	15百万円
<u>長期繰延税金資産小計</u>	<u>270百万円</u>
<u>評価性引当額</u>	<u>△233百万円</u>
<u>長期繰延税金資産合計</u>	<u>37百万円</u>
長期繰延税金負債	
有価証券評価差額金	1,451百万円
土地評価益	243百万円
前払年金費用	501百万円
<u>圧縮記帳積立金</u>	<u>29百万円</u>
<u>長期繰延税金負債合計</u>	<u>2,227百万円</u>
<u>長期繰延税金負債の純額</u>	<u>2,189百万円</u>

### 2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 関連当事者との取引に関する注記

### 1. 親会社及び法人主要株主等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	三菱商事(株)	(被所有) 直接 64.9%	当社製品販売の総代理店 役員の兼任	製品の販売等 (注) 2 (1)	26,735	売掛金	4,515
				製品・原材料の購入 (注) 2 (2)	1,573	買掛金	186
				販売手数料 (注) 2 (1)	490	未払金	83

### 2. 子会社及び関連会社等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	日東富士運輸(株)	直接 100.0%	運送部門 役員の兼任	資金の借入 (注) 2 (3)	613	短期借入金	647
				受取配当金 (注) 2 (4)	500	—	—
子会社	(株)さわやか	直接 100.0%	外食部門 役員の兼任	資金の借入 (注) 2 (3)	671	短期借入金	560
				受取配当金 (注) 2 (4)	200	—	—
子会社	隅田商事(株)	直接 100.0%	当社製品販売の代理店 役員の兼任	資金の借入 (注) 2 (3)	647	短期借入金	682
				受取配当金 (注) 2 (4)	301	—	—

### 3. 兄弟会社等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の子会社	三菱商事フィナンシャルサービス(株)	なし	資金の貸付	資金の貸付 (注) 2 (3)	4,347	短期貸付金	3,608

(注) 1 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注) 2 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 製品の販売等については、市場価格、総原価を勘案して、一般的取引条件と同様に決定しております。また、三菱商事株式会社との販売高に対して一定の販売手数料を支払っております。
- (2) 製品・原材料の購入については、市場の実勢価格を参考に、一般的取引条件と同様に決定しております。
- (3) 資金の借入・貸付に関してはCMS（キャッシュ・マネジメント・サービス）によるものであります。借入金・貸付金の利率は市場金利を勘案して決定しております。なお、取引金額は期中平均残高を記載しております。
- (4) 受取配当金については、剰余金の分配可能額を基礎とした一定の基準に基づき合理的に決定しております。
- (5) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

**1 株当たり情報に関する注記**

1. 1株当たり純資産額	6,306円63銭
2. 1株当たり当期純利益	579円30銭

**企業結合に関する注記**

連結注記表「企業結合に関する注記」に記載しているため、注記を省略しております。

**重要な後発事象に関する注記**

該当事項はありません。

**その他の注記**

該当事項はありません。